序

共同研究「小児腎疾患の進行阻止と長期管理のシステム化に関する研究」が，厚生省児童局母子衛生課の尽力により，プロジェクト研究班として発足して2年が経過し，ここに平成元年度の研究報告書を刊行することになった。

本研究は，多岐にわたるものであり，幅広く各分野より多数の専門学者の参加を得ているが，それぞれの分野で本研究報告書にみられるとおりの成果をあげられていることに対し，敬意と謝意を表するものである。

「進行阻止に関する免疫・遺伝・病態生化学研究班」（班長：北川　照男　日本大学教授）は，腎疾患と生体防御機構との関係を研究し，腎炎起因菌抗原に対する免疫応答性が患者の遺伝子と関係あることを明らかにした。また，実験的腎炎モデル動物の作成に成功し，腎炎の発症及び進行と細胞性免疫との関係を明らかにした.

「小児腎疾患の長期管理における運動・食事・社会心理に関する研究班」（班長：酒井　糾　北里大学教授）及び「小児腎疾患の医療と教育に関する総合的研究班」（班長：小沢　憲二　国立療養所新潟病院長）はそれぞれ，長期医療にともなう身体的成長障害ならびに精神衛生的問題点を調査し，その対策を研究した。

平成2年度は，本プロジェクト研究の最終年であるので，本報告書に報告された研究成果を更に進展されるよう研究班参加の先生方の一層の努力をお願いする次第である。

学童検尿の普及等により，小児慢性腎疾患の患者は減少の傾向にあるが，成人腎不全患者は依然として増加しており，腎透析のための医療費や時間的・経済的損失は多大で，国民保健上の大きな問題となっている。このような事態に対し，厚生省ではわれわれの研究班とは別に，保健医療局予算で「腎不全医療研究班」（班長：三村　信英　国立佐倉病院長）を編成し，成人の慢性腎不全患者を対象として retrospective にその原因を調査しており，この両研究班の研究成果を総合してわが国の腎不全対策が樹立されることがのぞまれている。

平成元年度報告書作成にあたり中心となってまとめていただいた，北川照男，酒井糾，小沢憲二の各班長及び事務局の方々の御努力にお礼申し上げるとともに，厚生省当局の御支援に感謝する。

総合班長　石　丸　隆　治

検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります

共同研究「小児腎疾患の進行阻止と長期管理のシステム化に関する研究」が,厚生省児童局母子衛生課の尽力により,プロジェクト研究班として発足して2年が経過し,ここに平成元年度の研究報告書を刊行することになった。